

# 出付山スキーの報告 (山スキー湯治会)

## PART 1 八甲田山の巻

1990.5.3~5.5

メンバー：作野晃一，小森宮秀昭 他16名

二年前この八甲田山にて山スキーと出を荷喫した味をしめて今年、サロンバスを仕立てて総勢18名で東京・浅草駅前を出発した。(5.2 22:30)。途中矢板の手前で渋滞に会ったが、翌5.3 7:30頃雲谷山に着いた。宿にて朝食、小休止の後ロープウェイ乗場に向った。

### 5月3日(高曇り) 箒場谷コース

ロープウェイ山麓駅で小一時間待ち、山頂駅に11時少し過ぎに着いた。仕度を整え11:40山頂駅を出発したが、1名は荷物をかついでのスキーができません、この時点でロープウェイで下山願うというハフニングが起きた。地は何とか寒水沢への急斜面をこなせ、大岳ヒュッテに向けて登行開始となった。ただ、本パーティはスキーヤーが大部分な為、寒水沢への下りでも約2名が勝手に離れて滑っていくので統率するのに苦労した。背面に岩本山をうっすらと見える程度の高曇りの中、大岳ヒュッテに13:40着。小休止の後14:00発で赤倉岳へ向う。この間、スキー協の遠藤さんを小森宮さんが見つけ挨拶をかわした。赤倉岳への稜線から箒場谷側はガスで視界がきかなかつたが、田茂苑岳側は晴れていて視界は良好であった。井戸岳付近で又々ハフニングが起きた。1人のスキー靴の前のコバが岩に当たってか両方ともとれてしまったのである。スキー滑降不可の為、赤倉岳より田茂苑ロープウェイ山頂駅に下山願った。残り16名は赤倉の大斜面を快適にガスの中を下り、途中一度休憩し、16:30箒場谷に到着した。

タイム：山頂駅 11:40 - 大岳ヒュッテ 13:40 / 14:00 - 赤倉岳 14:50 / 15:10 - 箒場谷 16:30

5月4日(曇り後雨) 小岳コース

ロープウェイ山頂駅を9:15に出発。寒水沢を経て大岳ヒュッテに10:30着。大岳と井戸岳の鞍部を大岳よりトラバースし、大岳と小岳の鞍部を経て、小岳山頂に12:00着。高田大岳の斜面をぬらったが、昼食中に雨がポツリ、ポツリときた。従って小岳の大斜面を猿倉へ下ることにした。小岳の斜面を快適に滑り、13:10猿倉バス停に着いた。雨が本降りになりバスで酸ヶ湯に急ぐ。酸ヶ湯の千人風呂に入って汗を流し、雲谷山へ帰った。

タイム: 山頂駅 9:15 → 寒水沢下 9:45 → 大岳ヒュッテ 10:30 /  
10:45 → 大岳・小岳の鞍部 11:30 → 小岳山頂 12:00 /  
12:15 → 猿倉 13:10

5月5日(雨) 奥入瀬

朝から雨。蕨山に入って、奥入瀬3里半を歩く。夕方弘前駅前の津軽蛇皮線のライブを聞き、地酒を飲んで帰京の途についてた。

PART 2 会津の巻

1991. 5. 3 ~ 5. 6

メンバー: 作野晃一 他4名

5月3日(雪)

朝6:00東京を発って、国道294-塩原を経て木賊山へ11:00着。雪は塩原山あたりからチラホラ降り出し、木賊山の川辺の共同露天風呂では完全な雪となった。雪と桜を見ながら山を楽しんだ後松枝岐で「裁ちそば」を味わい13:30頃御池ロッジに着いた。御池では雪は2日の日から降っているということで30cm位積っていた。この日はシールをつけて登高練習のみをして明日に備えた。

5月4日(晴) 燧ヶ岳

7:30 御池ロッジを発つ。天気は快晴。気持ちよくシール登高を行う。雪はひざ下10~15cmまでくる。広沢田代(8:30)、熊沢田代(9:40)、2075m付近(10:30)で小休止をして頂上に11:30に到着した。絶好の天気ですべての展望を楽しんで13:20滑降

開始。しかし、今朝方まで積った雪は快晴の好天で完全にくさってしまい歯が立たない雪となってしま、ていた。曲がらない雪に立ちながら熊沢田代(14:00)、広沢田代(14:50)を経て15:30御池ロッジに滑り降りた。この日の宿は小豆山の村営宿舎。宿の山は豊富で快適であった。夕食時郡職山の会の安藤エんのパーティと会い、皆で本賊山まで再度川辺の山を楽しみに行った。

タイム：御池ロッジ 7:30 - 広沢田代 8:30/8:40 - 熊沢田代 9:40/9:50 - 2075m 10:30/10:50 - 頂上 11:30/13:20 - 熊沢田代 14:00/14:15 - 広沢田代 14:50/15:00 - 御池ロッジ 15:30

5月5日(晴) 会津駒ヶ岳

今日も素晴らしい天気だ。車で登山口のはしご鞍の下まで入り、スキーをかついでアンテナの所で小休止。ここは雪はうすらとかかかっているがヤブである。さらに1hr程スキーをかついで歩いた後(10:30)燧ヶ岳の見え始める所からシール登高にした。駒ノ小屋の手前1990m付近で小休止の後頂上に12:30着。今日も360°の展望を楽しみながら昼食をした。頂上は多勢の人がいたが、中の高年のグループが天幕をかついで三老岳の方へ縦走していったのには驚いた。13:40に頂上を登って、快適に滑り、六角沢の上部分を滑ったが、快適なのはそこだけ、あとはズサズサの悪雪に悩まされ続けて15:30アンテナの所にたどり着いた。

タイム：はしご 8:40 - アンテナ 9:30/9:40 - 1650m 10:30/10:40 - 1990m 11:30/11:45 - 頂上 12:30/13:40 - 1600m付近 14:25/14:35 - アンテナ 15:30 - はしご 16:00

5月6日(晴)

昨夜は、湯ノ花山を楽しんだので今日はすぐ帰京。途中「とちの突まんじゅう」をお土産に、奥塩原山「むじなの湯」に入り17:30東京着。

## PART 3 乗鞍岳の巻

1991.6.1~6.2

メンバー：作野晃一 他1名

6月1日（曇・ガス）

前日 11:00 PM 柏を出發し、中央高速諏訪湖インクで7:30AMまで仮眠。9:00乗鞍高原着。三本滝までマイカーはシャットアウトで、位ヶ原までのバスは1日2便（8:19と13:30）故本日は上へ行くのはあきらめたが、上部は濃いガスのように心をなくさめて白骨岬に向った。「泡の湯」でゆっくりと浸っていると、天候も少し回復しかかったかに見えたので、平湯峠からスカイラインで岐阜県側の畳平に行くことにした。安房峠から前穂高・岳沢がよく見えただけ、雪は大変少ないように思えた。3000円せの料金を払ってついた畳平はやはりガスの中であつたが、人は多く、ボールの練習をしている人がいたが、雪は少なく滑る気もなく引返した。帰り逆巻岬の露天風呂に入り乗鞍高原の民宿に帰った。この民宿は岬を引いていて、木の香もよい松風呂で満足。一泊6300円で料理も多く、いい宿であつた。

6月2日（雨）

朝起きるとシトシト雨が降つていた。しかし、視界は良好。宿から乗鞍頂上がよく見える。8:19のバスを利用して9:00前位ヶ原着。岐阜県側と違つてこちら側は雪はタフツアリある。位ヶ原山荘は閉つていた。橋のところからミール登高をし、10:30肩の小屋着。頂上はガスで見えなくなつていた。肩の小屋は食堂の営業はしてなかつたが、中に入ることはでき、ストーブで濡れたものを乾かした。11:20小屋を出て、大雪渓をまたたく間に滑り降りた。そのまま往路を戻るのもお足りないので除雪された道路を摩利支天と富士見岳の鞍部下都まで歩いた。そこから位ヶ原山荘まで一直線の犬斜面を滑ることにした。快適な滑りを2550mで止め、おたいたいのので登り返してもう一度滑ることにした。再度、ノストツフで位ヶ原山荘まで滑り込み、今年のスキーを終了した。

タイム：位ヶ原 9:00 - 肩の小屋 10:30/11:20 - 位ヶ原 12:30